

平成 24 事業年度の業務実績に関する
評価委員会における提言
【素案】

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学に係る平成24事業年度の法人の業務実績に対する評価及び指摘事項等について、和歌山県及び公立大学法人和歌山県立医科大学に対する各委員の提言を、参考までに下記のとおり取りまとめた。

記

【教育・研究】

- MD－PhDコース等の多様な履修形態の導入により、今後は形骸化することなく初期研修の活動内容との両立や初期研修の質を高めるような履修コースの充実した内容の実現が望まれる。
- 大学院修士課程及び博士課程の学生定員充足率が90%を下回っており、今後は入学定員の適正化や入学者の学力水準に留意しつつ、充足に努める必要がある。
- 医学部における低学年での留年者数の減少に向けた対策を講じる必要がある。
- 研究推進のための取組が前年度に比べ実を結びつつあるが、今後はレベルの高い研究は更に重点的に取り組むとともに、臨床研究は更に研究者の広がりを目論みながら推進していくことが期待される。

【附属病院・地域貢献】

- がん診療については、長期的な視点に立ち、県民のヘルスケアがどのように改善したかを評価できるような仕組みづくりが必要である。
- 医療充実を図るため、附属病院で必要と考えられる感染症科等の診療科の立ち上げについて検討されたい。
- 附属病院の業績向上については、個々の努力のみに依存することなく、経営幹部の意思統一がなされているのか、中間管理職は必要な機能を発揮しているか、事務部門は教育研究および医療の現場を効果的に支援しているか等、組織的に行われているかについて継続的に省察する必要がある。

ある。

- へき地医療の医療水準の均てん化は、全国的な大きな課題であるが、急性疾患だけでなく、慢性疾患の充実等の更なる取組についても検討されたい。
- 医師の地域偏在の解消と適切な配置に向けて、県民枠・地域医療枠の卒後のプログラムの更なる充実を含めた議論を行い、目標達成のために学内の体制づくりを行うことが期待される。

【運営体制】

- 医学部入学定員増に対して、カリキュラム等の現行の教員体制で取り組めること、教員定員を拡大しないと取り組めないことについて適切に分析し、実効性のある教育に向けた改善が望まれる。
- ハラスメント等の不祥事の発覚については、防止策の徹底とともに、発生時の速やかな対応が必要である。
- 看護部と保健看護学部との間で知識の共有や連携システムの構築が望まれる。

【財務内容】

- 検討が進められている新たな診療科の設置について、なるべく早い実現が期待される。

※MD－P h Dコース:医学部医学科の課程と医学研究科博士課程を統合し、医学科の課程の途中で博士課程を修了することにより、卒業と同時に学士（医学）と博士（医学）の学位を取得できるコース